

平成29年度 神戸市立科学技術高等学校 マネジメントプラン実施報告書

今年度重点目標	具体的方策(取組内容・状況)	達成状況・課題	自己評価	改善の方策	外部評価	外部評価コメント
ものづくり教育を通して社会に貢献できる人材を育成する	(1)職業資格・技能検定試験の合格率の向上を図る。	合格率は各科目も努力目標として高く設定しているため、達成度が若干低めに見えるものもあるが、指導過程も含めて概ね達成できた。	2.63 (3.05)	工業各科のみならず、部活動とのバランスも含めた学校全体の取組としていく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地道な取り組みがなされている。 ・各種大会やコンテストに数多く参加し、良い成績を上げていること、とても素晴らしいと思います。外部にも発信することを望みます。 ・評議委員会の説明の中で「職業教育は全て入社してからします」との会社側のコメントはショックであった。学校で種々資格取得を含めた教育をやっているのだから、教育が(企業内での)やりやすいなどのコメントが出てくるよう努力してほしい。 ・昨年度の自己評価との比較だけでは、適切な評価が難しいのですが、職業資格・技能検定試験や各種コンクールへ十分取り組まれているように感じました。また、「空飛ぶ車いす」の活動において、身につけた技術で社会貢献することの大切さと責任、喜びを学ばれていることと思います。 ・科学工学科については、まだ暗中模索の段階かもしれませんが、有益なご意見をお持ちの先生がいらっしゃるようですので、独自性を持たれることと期待しております。
	(2)各科の特色を生かしたものづくりを推進し、ものづくりコンテストを中心に、各種コンクールへ積極的に参加する。	各科目も各種大会やコンテストには積極的に参加・出場し、優秀な成果を上げている。工業系高校として十分な活動ができていく。		3年生の「課題研究」を中心として、正課の教育活動内容を向上し、その成果発表の場としてより積極的に取り組んでいく。		
	(3)科学工学科の教育内容等を再構築し、より一層の特色化を図る。	科内で行えるソフト的事項については方向性が見えてきた。他科とは一線を画す進学という目標をさらに推し進めるためには、ハード面的な事項に対し学校としての取組が必要だと感じた。		学校による科の特色化、という意識を持つ必要がある。また教員の確保および教育施設の充実が必要。		
力のつく授業を推進し、基礎・基本を確実に定着させるとともに、活用する力を身につけさせ、希望進路の実現を図る	(1)学校のチーム力を高め、各科・各教科における授業力・評価力及び授業の質の向上を図り、学力・技能の定着、伸長を図る。	校内研究授業は4回実施したが、各科・各教員へ十分に浸透していない点があった。	2.98 (3.08)	校内研究授業を科をこえたものとしての意識を高め、授業見学を積極的にこなす。生徒アンケート結果を各教科で検討し、授業改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・課題発表の取り組みは良かった。 ・基礎学力・知識を身につけさせてほしい。自分が、どう思っているか、どうしたいのか、言えない子が多いのでは・・・。コミュニケーション(生徒と先生、親と子)が必要であると思います。 ・進学コースと位置付けた科学工学科の役割が気になりである。AO入試を活用すれば他学科も十分進学できる。どう差別化を図っていくのか、今一度、議論、整理が必要ではないだろうか。併せて、旧御影工業の「工業化学」の伝統も引き継いでほしい。 ・卒業アンケートの間4で「専門教科の学習について、“とても難しかった”と“難しかった”を合わせると60%になっています。専門教科の学習が貴校の特色と思われそうですが、それが容易でないことがうかがわれます。一因として、専門教科についての知識が十分でないことが推測されますので、受験するまでに、専門教科としてどのような学習が展開されるのか知ってもらう機会をさらに増やす、もしくは深める必要があるのではないかと考えます。さらに卒業アンケートで、授業のわかりやすさを求める生徒が約半分もいるという結果になっていますので、生徒のニーズに応えるために、授業において、さらなる工夫が望まれます。
	(2)教科・科目のシラバス、年間指導計画・目標及び評価計画を明確にし、それらに基づいた公正、公平な指導と評価を行う。	シラバスは整備され形は整ったが、指導と評価の一体化に向けたさらなる内容の検討が必要である。		シラバスの内容の見直しを各教科が責任を持って行い、学力の向上を図る。		
	(3) 進学・就職目的の明確化を図り、第1希望の進路実現を目指す。	数値が示す通り、ほぼ目標を達成することができた。		生徒の進路に対する意識の向上を図り、組織として指導する体制づくりを行う。		
3年間を見通したキャリア教育を推進し、実社会や職業とのつながりを視野に入れ、「学ぶこと」と「働くこと」の関連を理解させ、「生きる力」の育成を図る	(1)キャリアセンターを中心に、各学年・各科が連携、協力し、すべての教育活動をキャリア教育の視点で行う。	キャリア教育行事の取捨選択と精選が必要である。	2.90 (2.98)	学年・科・キャリアセンターが連携を取り充実を図る	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPの更なる充実を期待する。 ・特記なし。 ・貴校のキャリア教育について何も存じ上げない立場で書かせていただきますが、情報提供だけでなく、職業興味検査や職業能力検査などを実施し、生徒の特性に基づいた指導が理想的かと思えます。 ・卒業アンケートで、“高校生活が非常に充実していた”と“充実していた”を合わせると86%になり、さらに、“学校生活に満足している”と“どちらかと言えば満足している”を合わせると90%になっていて、先生方の日頃の取り組みが高く評価されていることがうかがえました。
	(2)スポーツ支援振興センターの設置及び機能を内外に周知するとともに、部活動の推進を通じて、リーダー性・社会常識力・規範意識の養成を図り、あわせて自尊心、愛校心に富んだ生徒を育成する。	各部門も熱心な活動を行い、それなりの成果を上げている。SSセンターについては、周知が不十分なところがあった。		SSセンターについての意義やねらいなどをさらに明確にして周知を図る。部活動を通じた人間力向上の推進を図る。		
	(3)5S活動の推進と関連付けて、安全衛生教育の推進を図り、安全管理意識の醸成を図る。	全職員が同一歩調で5S活動に取り組めていないところがある。教員の規範意識をさらに上げる必要がある。		同じ教室、同じ実習場所を、複数の教員が使用している。5S運動は、実習安全作業の基本的な事で、もっと教員間での共通理解を深める事が必要。		
	(4)各種活動を通じて積極的に地域貢献を行い、その取組を校外に発信する。	Webページ、インフォメーションボードには、常に鮮度の高い情報を高頻度で更新するようにした。また、生徒会や部活動等で、地域貢献に寄与するような活動を積極的に推進した。HPは委員会から「特別賞」を受賞。		中学校訪問や学校見学会においても、積極的に広報活動を展開する。		

4:達成できた
3:ほぼ達成できた
2:あまり達成できなかった
1:達成できなかった

()内は昨年度

A:自己評価及び改善の方策は適当である
B:自己評価及び改善の方策は概ね適当である
C:自己評価及び改善の方策は適当でない
D:外部評価できない